

白藍塾オリジナル

2012入試小論文分析&解答のヒント

2012年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●早稲田・スポーツ科学部

課題文を読んで、「バリアフリーなスポーツの参加環境」について考えることが求められている。

課題文は、前半では日本のスポーツ行政の現状とそれに対する国民の意識、後半では障害者スポーツの近年の発展について説明されている。その上で、最後に「日本ではまだスポーツが社会生活の中に十分に根付いていない。国民がもっと多様な形でスポーツに参加できるように、国のスポーツ行政が環境整備をするべきだ」とまとめられている。この最後の部分に、課題文のメインテーマが現れていると考えていいだろう。したがって、この主張が正しいかどうかを問題提起すればよい。

では、何を書くか。

基本的にはイエスの方向で書くのが望ましい。そして、「スポーツのバリアフリー化とは具体的にどういうことか」「そのことにはどういう意義があるか」の二点をしっかりと考える必要がある。この場合、障害者のことだけを考えても、あまり論が深まらない。ふだんスポーツに縁のないサラリーマンや高齢者が気軽にスポーツ参加できるようにすることも、スポーツの「バリアフリー化」と言える。また、一般の人々がスポーツをすることでリフレッシュや健康管理をしたり、高齢者が老後の楽しみを見つけられるとすれば、それも十分にスポーツの社会的意義と言えるだろう。そうしたことを考えた上で、「一般の人々がもっと自由に、手軽にスポーツ参加できることにはどういう意義があるか。またそのためには国がどのような環境を整えるべきか」について具体的に説明できれば、十分説得力のある小論文になる。

ノーで書く場合は、スポーツのバリアフリー化自体を否定することはできないので、「国ではなく地元のスポーツクラブなどが主導してこそ、バリアフリー化が地域に根付く」な

どの論が考えられる。ただし、無理に書くと単なるこじつけになるので、イエスの方向で考えるほうが無難だろう。

スポーツの社会的意義を考えさせるという点では、これまでもしばしば出題されてきたテーマであり、しっかりと準備をしてきた人にとっては答えやすい課題だったはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>